

死後の処置からエンゼルケアへ



～ターミナルケアは日頃のケアの延長線～

介護老人保健施設うぐいすの丘
看護師 林田 幸子

【はじめに】



在宅復帰施設 看取りの増加

- 職員の経験や意識に相違
- 看取りや死後の処置が不安
- 死後の処置は看護職のみ実施
- 家族の悲しみを和らげるようなケアも不十分

介護老人保健施設うぐいすの丘 ターミナルケア指針

「・・・当施設の理念のもと、当施設で自然な最期を迎えたいと願っている入所者に対し、・・・多職種協働で全人的なケアを行うこととする。

ターミナルケアは特別視するものではなく、日頃のケアの延長線上に位置づけられるものである。」

ターミナルケアについてのアンケート結果



看護

- 夜勤の看護職は一人
- ターミナル期の医療
- 家族説明
- 死後の処置手順
- 介護職にもっと関わってほしい

ターミナルケアについてのアンケート結果



介護

- ターミナル期になると、医療的なことが多く、看護に任せてしまう
- 最終的には看護がいるので安心
- 日頃のケアが途切れてしまう
- 家族や本人への心のケアに難しさを感じる
- 死後の処置など手順がわからずどうしていいかわからない

アンケート結果を受けた取り組み



ターミナルケアマニュアル作成
多職種協働

家族向けパンフレット作成
……家族の心の準備
満足のいく関わり

うぐいすの丘のターミナルケアの課題



…マニュアルだけでは難しい

一つ一つのケアの根拠や心遣い

ターミナルケアのやりがいや理念



ターミナルケアについて

計画的で継続した学びが必要

エンゼルケアのDVD作成



- エンゼルケアの知識と技術の確認
- 日頃のかかわりの大切さと家族の意向を引き出すコミュニケーションを学ぶ



『家族とともにエンゼルケア
～新たなる旅立ちのために～』

DVDの効果



1. エンゼルケアに根拠を盛り込んだ

→ 映像を通し、具体的で分かりやすい

2. 当施設の看取りをイメージし、台本を書き演じる

→ 家族の気持ちの理解

日頃の関わり大切さを再認識

3. 身近な職員が演じている

→ 見ている職員が感情移入、参加意識を持つ

ターミナルケアの思いの共有

より良い看取りの条件



- 日頃のケアがうまくいっている
 - ケアを通して信頼関係がある。
 - きれいな体で褥瘡や傷がない。
- 思い残すことがない。
 - 家に帰る等関わりを持っておく。
 - 適切な時期に説明があり、理解できている。
- 安らかで苦痛がない。
- 看取りの場面に立ち会える。

最後の場面

家族 「ここで看取ってもらって幸せでした。」

職員 「縁があって最後に立ち会うことができた。」



❀ 悲しみとともに笑顔になれるように... ❀

家族と共にエンゼルケア



(仮名)